

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑤児童期(6歳～12歳)の生活と発達

- ◆ 心と体の両方なので、児童期の発達は本当にめまぐるしく変わるものだと思います。子どもでも大人でも、物事がうまくいかないと人にあたって、物を壊したりしてしまいます。そんなことにならないように、まずは話を聞いて、良い方向にいけるように寄り添ってアドバイスをできたらいいなと思いました。放課後児童クラブは幅広い年代が利用しているので、その学年毎に注意して見守っていったらと思います。
- ◆ 児童の健全な発達には、サポートする人の心構えがとても重要だと思います。成長するにあたり常に壁を乗り越えていくには、様々な人の励ましが子どもの心を育てていくと、改めて感じました。また、子どものグループ活動の中で役割をもたせることは、自己を認めることにつながるのだと勉強しました。子どもが自信をもてる言葉かけや態度で示し、未来につなげることができたら良いと思います。
- ◆ 人間が生まれてから死ぬまでの心身の変化過程で発達段階が6つに分けられることが分かりました。私が仕事で関わっている子どもたちの段階は児童期(学童期)に属し、学者のピアジェは具体的事物や活動に助けがあれば、見た目に左右されず考えることができるかと唱えていました。このことについては、放課後児童クラブでの子どもたちの生活を見ていても感じることもあり、目を見た記憶がイメージのもとになって表現することができていると多々感じることもあります。もう一人の学者エリクソンは子どもの才能を発見し、励まし、適切に指導する親・教師の存在が非常に重要だと唱えていました。子どもの生まれた環境、家族構成によっても発達に違いはあると思いますが、その点も視野に接していきたいと思います。
- ◆ 発達心理学という観点から子どもの特徴を捉え、児童期の適切な対応方法を学ぶことができました。言葉や思考が幼児期に近い低学年、集団生活が中心で個人差が目立ってくる中学年、青年期の入り口にあり心身の変化が大きい高学年と、児童期の中でも学年によって対応の仕方が違います。それぞれの学年の特徴をしっかりと押さえ、適切に対応できるように努めていきたいと思います。
- ◆ 冒頭であった「大人とは何歳のことか」の問いに一概に何歳かとは言えないと感じました。子どもたちを見ていても、同学年で精神的に年齢が高い子ども・低い子どもがいますが、各学年それぞれに適した対応法を参考にし、一人一人の日々の成長を感じながら接していきたいです。